

# 令和7年度学校推薦型選抜試験問題

長崎大学 教育学部 学校教育教員養成課程

小学校教育コース

特別支援教育コース

## 小論文

### 注意事項

1. 試験開始の合図があるまで問題冊子は開かないこと。
2. 解答用紙の所定の欄に志望コース，受験番号，氏名を記入すること。
3. 試験開始後，問題冊子の印刷不鮮明や，ページの落丁・乱丁および解答用紙・下書き用紙の汚れ等があった場合は，手を挙げて監督者に知らせること。
4. 下書き用紙による答案提出は認めない。
5. 解答する文字・数字・記号等は明瞭に書くこと。
6. 解答用紙は持ち出さないこと。

■次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

今、私たちは、とても危うい世界に足を踏み入れ始めているのではないだろうか。情報によって支配され、人間が機械になっていく恐れがあるのだ。感情を持たない機械になれば、感情をつくっていた五感もやがて手放していくかもしれない。ChatGPT(まー)を使えば使うほど、人間は情報によって動く機械になるだろう。脳の中で、感情の部分と知識の部分は分かれているが、だんだんと情報に侵蝕されていき、情報にならない感情はChatGPTでは使えないために無視され、判断材料ではなくなる。

私たちが生きた人間である証拠は、感情や生物的な感性でつくられる部分にあり、共感もこの感情によって生み出されている。たとえば相手の気持ちがわかって共感しようとしても、その状況がすごく嫌なにおいに包まれていたら共感できないこともあり得る。しかし、美しい花園にいと、嫌だと思っっている相手とでも握手できたりする。

人間にはこうした感性による選択肢が非常に多くあって、行動を導いている。私たちには言葉というロゴス(まー)と、論理によって動く場合と、芸術やスポーツのように感性や身体で動く場合とがあって、二つが複雑に交じり合いながら決断している。私たちはなにか行為しようとするとき、論理だけで決めていないのだ。

だが、ChatGPTは全てを論理に合わせようとする。極端な例でいえば、ChatGPTの判断によって、莫大な被害がお互いに出ることがわかっていても、そのほうが自国として利益を得られると確定できれば、戦争にGOを出すことだってあり得るかもしれない。

たった一人でも殺したくない、敵であっても殺してはいけないと思えば、利益を得られる場合であっても戦争はしないという判断が

できる。しかし、そんな判断を ChatGPT はしないだろう。もし解決策を尋ねたら、これまでの情報を全て駆使し、利益と不利益を天秤にかけて答えを出してくる。だから、戦争をやめるためにどうしたらいいですかと質問した場合、これまでの戦争は勝ち負けの戦争しかないわけだから、このまま続けるしかありませんと答える結果になってしまう可能性がある。ChatGPT は過去を参考にするから、これまでにないことは言ってくれない。

かつて人類は歴史の中で誤った判断を何度も繰り返した。ChatGPT は、その誤りを再びやってしまう恐れがあるのだ。

ChatGPT はこれまでやっていないことを生み出せない。私たちは堂々巡りの歴史に足を踏み入れてしまうだろう。人類は新しい経験を積み重ね、これまでにはなかった世界を切り拓いてきたのに、ChatGPT によってこれまでになかったことができなくなり、繰り返しの歴史になってしまう。

これまでも歴史は繰り返すと言われてきたが、本当にそのまま繰り返したわけではなく、同じような判断をくだしてきたにすぎない。似たような行動をとっていても、地球のキャパシティは大きかったのだから今日まで持ちこたえられた。

しかし今、世界は大きな転換期に差しかかっている。これまでと同じようなことを続けていたら、もう地球は人間の住める惑星ではなくなってしまう。もう限界期に達しつつあるのだ。解決策を ChatGPT に依存すると、地球のキャパシティを超える事態になるかもしれない。

もし ChatGPT に、地球のキャパシティを超えないようにするためにどうしたらいいですかという質問をしたら、これまで人間がやってきたことの中から選択するしかないから、では戦争を激化させ人口を減らしましょうという答えが出てくるかもしれない。人口の増大が地球環境への負荷をもたらした一因であるのだから、人口を抑制するのが一番早いだろう。人間を殺すことこそ、合理的な判断となっ

てしまう。

でも、これはとても危ない選択だ。本来、人間は様々な選択肢を持ち、ああでもない、こうでもない、と時間をかけて課題を解決してきた。それなのに、ただ便利だからと全てを ChatGPT に預けてしまったら、とんでもない結果が呼び起こされるかもしれない。

人間は根源的な問題に対して思考をやめてはいけないうし、これまでになかったことを考えつかなければならない。

(山極壽一『共感革命 社交する人類の進化と未来』河出新書、二〇二三年、二〇七頁～二一〇頁。※出題用に一部改変)

注1 ChatGPT: 対話型生成AIのサービスの一つ。あたかも人間と自然に会話をしているかのような応答ができ、文章作成、翻訳等の素案作成、ブレインストーミング時の対話の相手などが可能。

注2 ログス: 言葉を通じて表される理性的活動。言語・思想など。

問1 傍線部「情報によって支配され、人間が機械になっていく恐れがある」について、筆者がそのように考えている理由を、

ChatGPTと人間の課題解決に向けた手段や特性の違いから生じる社会変化に触れながら、一五〇字以内で述べなさい。

問2 本文の主旨を踏まえ、今後どのような学校教育が必要だと考えますか。そのように考えた根拠を含めて六〇〇字以内で具体的に

論じなさい。その際、自らがこれまでの学校生活で得た経験、もしくは学んできた内容についても言及すること。